

玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画と 乙な駅たまかわ



玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画

計画概要

- ・令和2年3月13日に国土交通省から「かわまちづくり支援制度」に登録され、この支援を受けながら計画が進行。
- ・村では、自然と歴史のある乙字ヶ滝周辺地域に、立ち寄る機会（楽しみ）を増やし、滞在時間を延ばせる空間づくりを行い、「賑わいと交流の場となる空間」を地域住民や民間事業者、村等が連携を図りながら、親水拠点の形成、交流人口の拡大を図る。
- ・国土交通省では、必要な河川管理施設の整備を実施していく。



■親水親岸周辺

- ・自然景観や歴史的な乙字橋の鑑賞
- ・管理用通路の広場的利用
- ・安全な写真撮影
- ・休憩（散策、サイクリング利用者等）
- ・カヌー等（坂路利用）
- ・オープンカフェ等の利用（乙字ヶ滝広場購入品の飲食等）



■乙字ヶ滝広場（仮称）

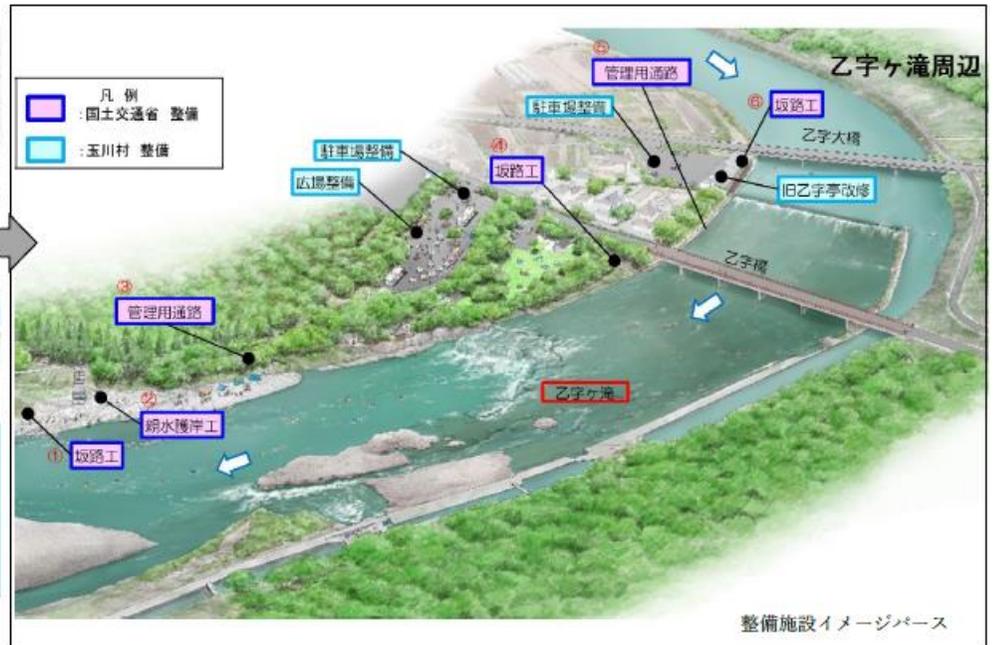
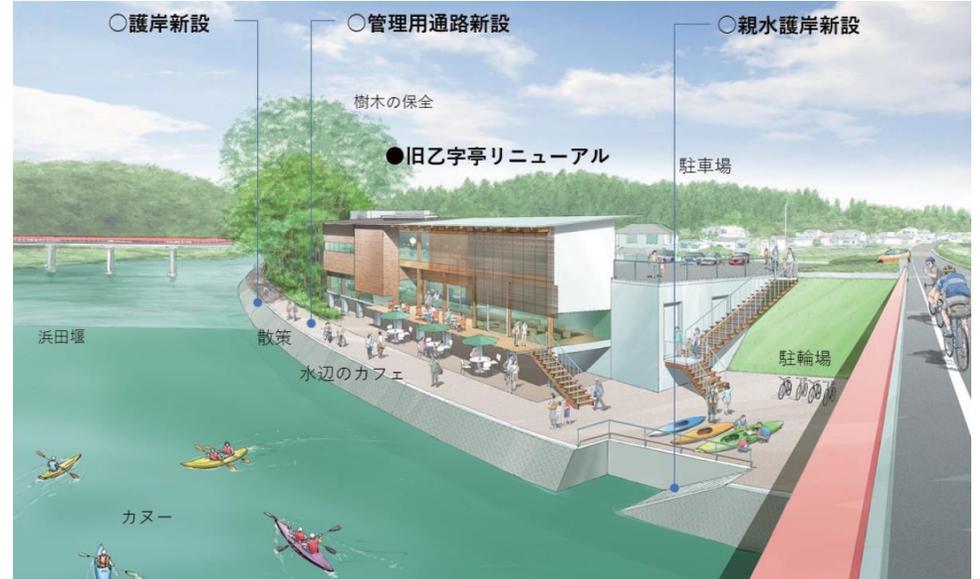
- ・キッチンなどによる飲食販売、購入、広場等での飲食
- ・物品販売、購入
- ・超小型電気自動車の立寄り休憩利用
- ・サイクリング休憩、自転車のレンタル利用
- ・乙字ヶ滝の写真や関連した俳句の展示鑑賞
- ・イベント、季節行事の開催



■複合型水辺施設（仮称）

- ・阿武隈川を望みながらの飲食、休憩（複合施設内）
- ・カヌー利用（坂路や建物の利用）
- ・カヌーの補完、貸出し
- ・カヌー教室
- ・村内の観光情報提供
- ・体験工房

玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画



玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画

計画の推進にあたって

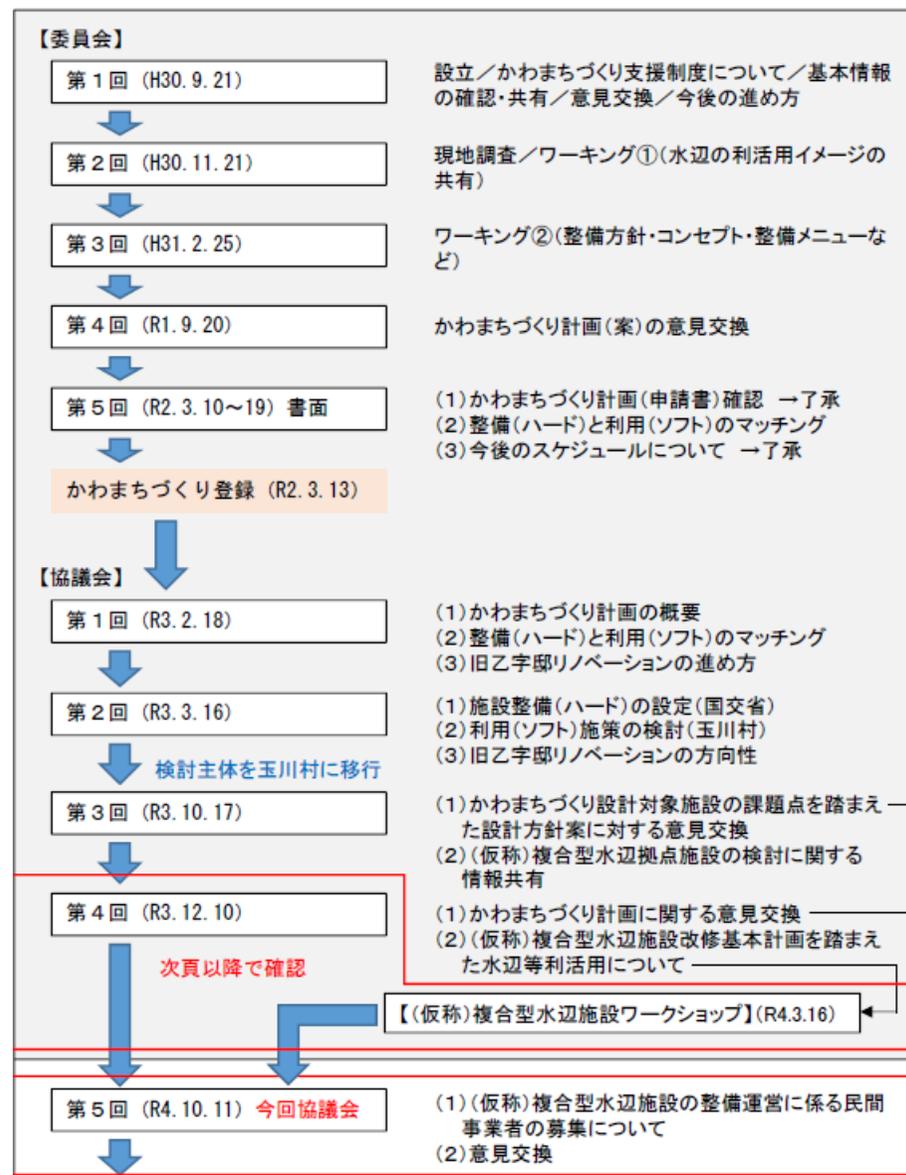
「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画策定委員会」を平成30年9月に立ち上げ、乙字ヶ滝周辺地域の賑わい創出を皮切りに、川から街中へ賑わいをつなげる本計画を策定するに至った。

令和2年3月13日付けで国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に登録となり、福島河川国道事務所の伴奏支援を受けながら、計画を推進するための組織である「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画推進協議会」を令和3年2月に設立した。

協議会委員は、地域住民や地元企業代表等で組織し、アドバイザーに、福島河川国道事務所、福島県県中建設事務所、福島空港事務所等の担当者をお願いし協議を行った。

会では、村が実施する交流拠点となる「乙な駅たまかわ」の整備方法や手法、国が実施する遊歩道等の周辺施設整備のデザインや利用動線等の検討を実施し一つ一つ実現していった。

村の役割、国の役割、県の役割、民間の役割等を明確にし、それぞれが連携し、計画の推進を図ってきた。



玉川村複合型水辺施設 乙な駅 たまかわ

施設概要

乙字ヶ滝周辺について地域は「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画（令和2年3月13日国土交通省登録認定）」に基づき、国（国土交通省）、福島県、自治体、民間事業者が相互に連携・協力して環境整備を進めおり、本施設は観光交流の拠点として整備したものです。

この建物は、国立競技場などの設計で知られる隈研吾氏が1996年に設計した建物で、東日本大震災以降、空き店舗となっていましたが、村ではこの建物を「地域資源」として活用していくため、複合型水辺施設として改修を行いました。

今回の改修に際しても隈氏が関わっており、クラフトビールの醸造・直売、ステーキハウス、カフェ、観光案内、お土産販売等を行います。



愛称「乙な駅 たまかわ」について

施設の近くにある「乙字ヶ滝」は、松尾芭蕉も訪れた玉川村の景勝地の一つであり、昔から地域の人々が大切にしている場所です。また、乙字ヶ滝公園内にある「滝見不動堂」は2019年の水害により、ご本尊が流失しましたが、須賀川市内で発見され玉川村に届けられ、地域住民の寄付やクラウドファンディングを活用し、本堂が再建されました。このように地元住民にも愛されている「乙字ヶ滝」の「乙」の字を使用していること。

村観光物産協会による「乙な市」「乙な夜市」「乙な夕市」などのイベントが開催されており、なじみ深い名称であること。

「乙」の字には、「しゃれていて、気が利いている様子。趣がある様子」等の意味もあり、新しい施設で展開される新産業（クラフトビール製造）や、レストラン、カフェ、観光物産協会での事業などに「乙」の文字が一役担い、ワクワクするような事業が期待されるイメージであること。また「玉川」を平仮名の「たまかわ」とすることで、誰にでも読み、「たまがわ」などの誤読もなく、何よりやわらかいイメージが得られることから、愛称として選定されました。

玉川村複合型水辺施設 乙な駅 たまかわ

明るく開放的なグランドフロア（2階）



歴史を継承し乙字ヶ滝と調和したデザイン

建物の中央に孔をうがち、建築自体が陸と川とをつなぐフレームとなっています。三種類の、ピッチの異なる木製ルーバーによって、光、視界、風をコントロールした、当初の設計思想を継承し、現代によみがえらせました。

26年もの間、玉川村の入り口にある施設はすでに地域の風景となっており、カタチを維持、補修等施しながら新しい施設として生まれ変わります。

地域の“食”と自然を体験できるリバーサイドフロア（1階）



乙字ヶ滝や木々など村の自然と調和したフロア

- 1) 開放的な空間で自然と料理を満喫できるデッキ
- 2) 木のルーバーを活用した自然と調和したデザイン

レストラン（ステーキハウス）にはLIVE感のあるオープンカウンターを設置し、味覚だけでなく、目で見ても料理を楽しむエンターテインメント性にも考慮したデザインです。

村の新たな名産を生み出すクラフトビール工房

村の新たな産業である、クラフトビール工房を施設内に配置するだけでなく、ガラスで仕切ることによって、食事しながら工房の様子を体験できる設えとし、訪れる人々に付加価値を提供します。

玉川村複合型水辺施設 乙な駅 たまかわ

乙字ヶ滝（乙字ヶ滝公園）とのつながり

かわまちづくりに基づき、国・県等により整備されたものが一体となるよう、管理用通路等をつなぐことで、乙字ヶ滝と施設とのアクセスが改善し、回遊性の向上や滞在時間の延伸など賑わいと交流の場となることが期待されます。



- A：複合型水辺施設
- B：乙字ヶ滝公園
みちのくサイクリングロード
- C：親水護岸・滝見台

【乙字ヶ滝公園から複合型水辺施設までの動線計画】



凡例
動線①：乙字ヶ滝公園（駐車場）～ 複合型水辺施設
動線②：動線1から複合型水辺施設（低水河岸）



凡例
動線①：乙字ヶ滝公園（駐車場）～ 複合型水辺施設
動線②：動線1から複合型水辺施設（低水河岸）

玉川村複合型水辺施設 乙な駅 たまかわ

玉川村では、本村に立ち寄る機会を増やし、滞在時間を延ばせる空間づくりによって、交流人口・関係人口の拡大と自然・歴史・交流を基本にした村内の周遊性を高めることを目的に、「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり計画（令和2年3月13日国土交通省登録）」を推進しており、本計画における交流拠点となる「複合型水辺施設」として改修しました。また、従来の整備方法とは異なり、スケジュールやコストなど事業の効率性を高めながら、民間事業者の経験やノウハウを活用し、本施設のポテンシャルを十分に発揮した施設整備や管理運営により既存施設の改修及び管理運営を一体的に実施できる「DBFO方式」により行いました。

民間事業者には「三柏工業株式会社・株式会社隈研吾建築都市設計事務所・株式会社あぶくまビール・株式会社トーカンオリエンス・三菱HCキャピタル株式会社」が事業参画しております。

	事業	契約額	村単支出額	国庫補助額	民間調達額	支払総額
令和2年度	旧乙字亭建物購入	14,800,000円	7,400,000円	7,400,000円		14,800,000円
	土地購入	5,000,000円	5,000,000円	0円		5,000,000円
令和3年度	旧乙字亭建物調査業務	21,648,000円	10,824,000円	10,824,000円		21,648,000円
令和4年度	施設改修アドバイザー業務	18,634,000円	9,317,000円	9,317,000円		18,634,000円
令和5・6年度	施工に関する契約業務	544,529,500円	63,725,000円	63,725,000円	417,079,500円	10年間の債務負担行為
	設計に関する契約業務	22,550,000円	11,275,000円	11,275,000円		22,550,000円
	施工監理に関する契約業務	7,920,000円			7,920,000円	10年間の債務負担行為
	合計	635,081,500円	107,541,000円	102,541,000円	425,000,000円	635,081,500円

施設整備に伴う事業経過説明

- ※令和3年度 「内閣府アドバイザー事業」令和4年1月18日受け入れ
- ※令和4年度 PFIによるDBFO方式での整備決定（全国で3例目） 民間事業者の公募開始
「三柏工業株式会社・株式会社隈研吾建築都市設計事務所・株式会社あぶくまビール・株式会社トーカンオリエンス・三菱HCキャピタル株式会社」とのJVを選定し基本協定締結（令和5年1月30日）
- ※令和5年度（繰越明許費）契約業務に係る支払（150,000千円（国庫75,000千円））
「複合型水辺施設の整備・運営事業 施工に関する契約」・・・127,450,000円（国庫63,725千円）
「複合型水辺施設の整備・運営事業 設計に関する契約」・・・22,550,000円（国庫11,275千円）
10年間の債務負担行為の設定（議決） 能登半島地震等の影響による工期延長（JVとの協議）
- ※令和6年度 急激な円安及び物価高騰等に伴う施工額の変更（契約額変更議決 469,529,500円→544,529,500円に変更 75,000,000円増）

玉川村複合型水辺施設 乙な駅 たまかわ

DBFO方式とは

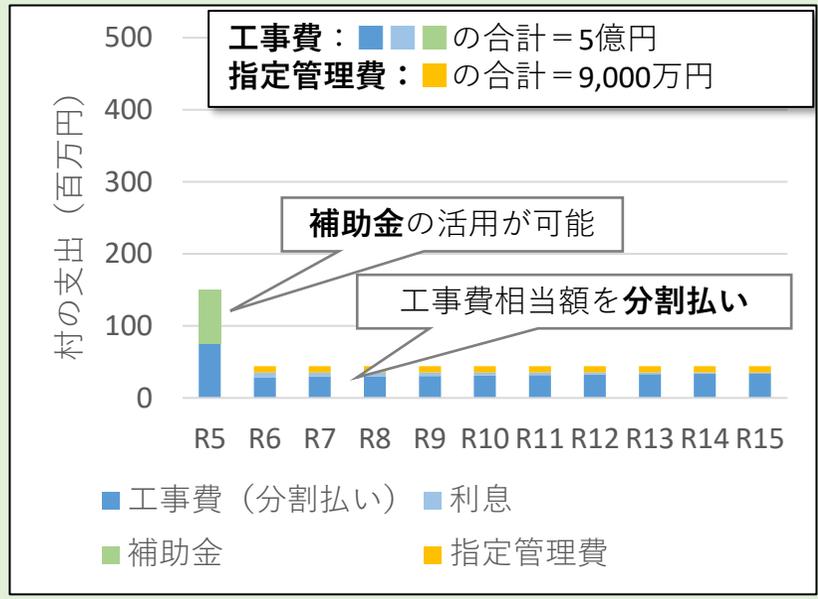
- 村** 一度に大きな支出は避け、支出を平準化したい
➤ **分割払い**が理想
- 事業者** 工事の完了後、早期に工事費用を受け取りたい
➤ **一括払い**が理想



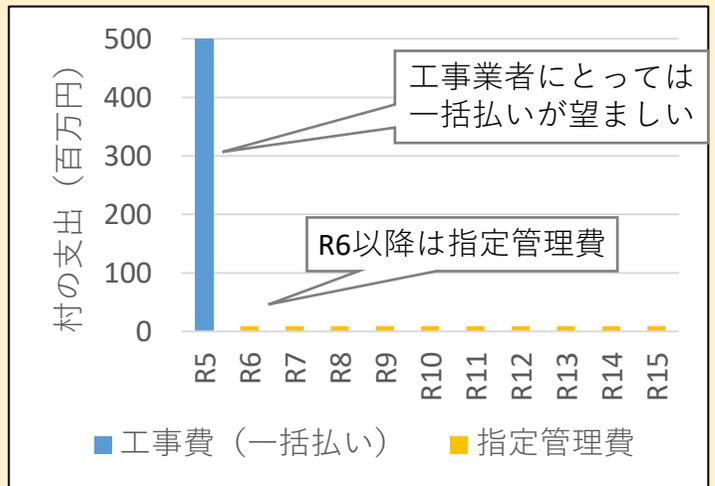
一括払いと分割払いの変換を行うために、資金調達を行う
 一般的な例) 公共が資金調達・・・公債など
 事業者が資金調達・・・銀行からの融資など

本事業 (DBFO) は、資金調達 (Finance) を事業者が行う
 事業者が資金調達を含めて事業を行うため、**補助金**が活用可能

本事業における事業費支払いの流れ



従来(従来)の事業費支払いの流れ



本事業では事業者が資金調達を行う

